

06月度 例会 山行報告書		報告者	津田廣一	参加 メンバー	CL ; 津田 廣一 利栄子
個人		報告日	7/27		
山城	北海道 道南	山行日	19年 6月 20日 (木)		
山名	狩場山		日帰り		
山行目的	道南の名山歩き (道南最高峰 300名山)		コースタイム (天候 : 天気図記号)		

配布先
総会参加数
山行: 1
リーダー
原紙:
会事務局

ルート図 (地図を見て正確に)



1/2.5 万地形図 : 狩場山・賀老

6/20 曇り
5:40 島牧 YH 発
6:10 千早新道
登山口 P
6:30 登山口発
6:50 1 合目
7:05 2 合目
7:20 3 合目
7:30 1 本
7:40 4 合目
8:00 5 合目
8:20 6 合目アゼン装着
9:35 大雪溪登りきり
アイゼン外し
9:50 7.3 ピーク
9:55 9 合目
10:00 南狩場山
10:20 親沼
10:35 狩場山山頂(15分)

11:10 親沼
11:20 9 合目
11:40 大雪溪アゼン装着
12:50 6 合目大雪溪終了
アイゼン外し
13:20 5 合目
13:30 4 合目 1 本
13:40 3 合目
13:45 2 合目
13:55 1 合目
14:10 登山口 P



滑落事件の雪溪

〈山行報告〉5時起床、宿を静かに出て登山口へ。準備をして6時半に出発。登山届を見ると、昨日の3パーティは途中で断念、今日の出発は私達が初めてだ。いきなりの急登が始まる。ボレボレで登っていくが、結構汗もかく。3合目を過ぎ、1h歩いた所で1本。天気は曇りで眺望は駄目だが、花は多く、妻はご機嫌だ。6合目まで登ると大雪溪が姿を現す。雪が結構硬く、キックステップは無理と判断し、アイゼンをつける。歩き出すと、妻も順調について来る。これなら、大丈夫とっていると、後ろから悲鳴が・・振り返ると仰向け状態で滑っていく。トラバースの前に斜面の傾斜からみて、万一滑っても途中で止まるだろうと判断していたが、10~20mぐらい滑って止まってくれた。「落ち着け！怪我無いか？」「足場確保して立てるか？焦らずに、ゆっくり、登って」私も途中まで下降して、妻の下へ廻って確保。以後、妻の下側を並行して歩き、雪溪のトラバース終了。大雪溪を登り切り、アイゼンを外す。南狩場までの急登を過ぎると、なだらかな雪原を登る。地図だと親沼の左側に夏道が通っているが分からず、右側の雪原を頂上まで詰める。10時35分に狩場の頂上へ。頂上は曇って眺望なし。ゆっくりとお握りを頼張って下山開始。雪原を下山路を探しながら慎重に進む。曇ってはいるが、ガスっていないので助かる。1h弱で大雪溪に至り、アイゼンを装着。念の為に持参したピッケルを妻に渡して、万一の時は、ピッケルを雪面に差し込む様に指示して歩く。恐怖心からか、妻の歩みが遅い。妻の下側をピタリと寄り

添って歩いているが遅々として進まない。焦っても仕方ないと覚悟(時間もたっぷりあるさ)、一歩、一歩と降る。1h以上かかって、大雪溪を渡り切った。アイゼンを外し、呪縛から解放されると、一気に登山口まで下山した。66歳の誕生日を祝う記念山行が終了した。



狩場山山頂、登ったぞ！
(少し手強い山だった)

確認
(リーダー)
津
19/08/21
田
作成
(報告者)
津
19/07/27
田

〈リーダー所見〉
軽アイゼンがあるからと、少し安易に考えていたかもしれない。雪溪の斜度、硬さ等から、滑っても止まるだろうとの予測は当たっていたものの、止まらなかったらと、思うとぞっとする。雪溪の残っている山は、慎重に計画を立てるべきと、思った。